

シリーズ 卒業企業訪問

花の舞酒造(株)は元治元年(1864年)創業の、一世紀以上の歴史を持つ蔵元です。毎年10月に開かれる「新酒味見会」は、1日で数千人が訪れる地元の人気イベントになっています。

新たな商品開発を行うため、平成18年10月、開設直後のHI-Cubeに商品開発室を設置し、微発泡清酒の開発に取り組みました。



企画・開発室長 高田さん

“ぶちしゅわ日本酒・ちょびっと乾杯”とそれに続く“ぶちしゅわメロン酒・ちょびっと乾杯”の開発を完了した平成21年2月に卒業しました。

HI-Cube卒業後も、ちょびっと乾杯シリーズ“ぶちしゅわイチゴ酒”“ぶちしゅわブルーベリー酒”を順次リリースしました。



企画・開発室長の高田さんにお話を伺いました。

■HI-Cubeに入居した経緯は？

会社の中にももらないように、商品開発室をあえて外部に置きました。公的な施設であることも安心でした。

花の舞酒造(株)

〒432-0000
浜松市浜北区宮口632

<http://www.hananomai.co.jp/>

古刹 庚申寺の門前にある、→創業当時に建てられた本店。



■入居しての感想は？

設備がきれいで、快適な環境でした。常駐のIMさんと新商品開発に向けていろいろと意見交換ができたり、地域産業支援活用事業計画の補助金を紹介してもらえたりして、入居して良かったと思っています。



■今取り組んでいることは何ですか？

来秋の完成を目指した新工場建設の準備で忙しい日々を過ごしています。また、生産効率を高めるための業務のIT化を推進しています。

■HI-Cubeでの思い出を一言

マンツーマンでプレゼン資料を作ってもらったり、関係機関に同行訪問してもらったり、IMさんにいろいろサポートしてもらったことが一番の思い出です。

シリーズ HI-Cube突撃隊！

地域の光技術関連企業が直面する商品化における課題を解決し、付加価値ある新商品創りをサポートしていくための組織として、この9月より「フォトンリング」という組織が誕生しました。

今回は、フォトンリングを主宰しております光産業創成大学院大学の宇佐美特任教授にお話を伺いました。



◆「フォトンリング」が組成されたきっかけは何でしょうか。

本学、光産業創成大学院大学は、光技術の研究シーズと光技術関連のニーズの融合による新産業の育成、起業実践による“起業家”育成を目指した大学です。その実現のために、研究開発をサポートする機能と起業化・事業化をサポートする機能という2つの柱を備えた日本にこれまでにない大学を目指しています。フォトンリングは、後者のこれから光技術等を通じて世の中に新しい価値を創造する企業の事業化サポートを行う組織として設立されました。



◆「フォトンリング」ではどんな取り組みをしていますか？

地域でやる気がある中小規模の企業等が直面する商品化上の課題で自社だけではなかなか解決することが出来ないことを大学が関わることで解決できる仕組みを提供していきます。具体的には、きちっとした情報を入手し、その情報に基づきビジネスプラン・商品企画書を作成できる仕組み、それらを想定ユーザーに検証できる仕組み、提案できる仕組み、商品を世に知らしめる仕組み等を構築し、提供して行きます。個々の企業では、自社の商品がどんなにすばらしくても、ユーザーにアプローチし、意見・評価をもらい、ユーザーに客観的に知らしめる仕組みを構築することはかなり難しいと思います。ですが、大学が介在することで、ユーザーに的確に訴求し、ユーザーとのネットワークを築き、意見の抽出を行い、商品の良さを社会的証明を発信することができると思っています。

◆HI-Cube入居企業・地域企業の皆様へ一言

フォトンリングは、皆さんのように、まだ小さい企業であるが、やる気があり、社会的価値を世の中に創造していく企業の商品化上の問題を解決するための組織です。現在商品化上でアドバイスを受けられるフォトンリングをサポートする本学の産業創成支援客員教授制度もスタートしています。すでに各分野の5名の方々が就任されています。これらの人的サポートネットワークを将来20名まで増員し、各分野で日本でも有名な人的ネットワーク(エンドユーザーネットワークも含む)の構築を行っていきます。“地域から日本を変える、元気にする”を一緒に実現する方のご入会を待っています。

